

様式第五十の二（第48条第6項関係）

認定事業適応計画の中間実施状況の概要の公表 (令和3年度分)

1. 認定の日付

令和4年1月27日

2. 認定事業適応事業者の名称

株式会社 JERA

3. 認定事業適応計画の実施期間

令和4年1月～令和8年3月

4. 認定事業適応計画の実施状況

(1) 事業適応計画に係る事業の目標の達成状況

株式会社 J E R A は、事業の成長と世界的な潮流である脱炭素の両立化に向け、環境負荷を最小に抑えながら低廉な電力を安定供給することが火力発電に求められていることを踏まえ、本計画において、デジタル技術を活用した火力発電の運営（デジタル発電所）の実現に向けた取組を進める。これにより、既存の火力発電所のビジネスモデルを変革し、発電所の運転保守方法を最適化することで熱効率を高める技術を導入し、温室効果ガス排出量やコスト削減等を図り、国内火力事業のコスト競争力と市場対応力を強化する。

また、今後確立するデジタル発電所は、株式会社 J E R A の発電所への展開にとどまらず、国内外の発電事業者へアプリケーションとして展開を拡大することで新たな需要開拓を図ることとしている。

本計画のうち、令和3年度においては、デジタル発電所向け各種アプリを中心に開発し、一部火力発電所においては点検作業に活用する専用アプリ（匠アプリ）等の導入を開始し、AIによる電力市場や需要動向を踏まえた最適な発電所の運転・停止計画を自動的にスケジューリングすることで、販管費（発電所の運転費用及び機器の定期点検費用等のメンテナンス費用）の削減効果が表れている。

(2) 生産性を相当程度向上させること又はその生産し、若しくは販売する商品若しくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標の達成状況

令和3年度においては、販売電力量の増加に伴い売上増となったものの、資源価格高騰により売上純利益はマイナスとなった。これは、燃料価格変動の影響を販売価格に反映する燃料費調整の仕組みにおいて、燃料価格の変動を販売価格に反映するまでのタイムラグがあり、今期はこれが大幅に差損に転じたことによる。その結果、当期における ROA は、基準値（2015年度から2018年度の4年平均）に対して、-4.5ポイント減となった。

(3) 財務内容の健全性の向上を示す目標の達成状況

財務内容の健全性の向上指標については、令和3年度は有利子負債／CF が△6.4倍となり、経

常収支比率が 85.5%となった。

(4) 実施した事業適応計画の内容

令和3年度においては、「匠アプリ」等、事業適応計画により取得予定の資産の一部を取得・事業供用した。

デジタル発電所を所管する O&M・エンジニアリング部門における販管費を同部における売上高で除した削減率は 35.8%となった。引き続き販管費を同部における売上高で除した値が、目標値である 23.0%を超えることを目指す。